

## 10. インフラストラクチャー研究所

### 1. 主な活動の記録

- (1) 社会資本の国民生活に果たす役割と必要性、その整備における建設コンサルタントの役割についての国民の理解増進

社会資本の動向および建設コンサルタンツ協会に関連する情報を、官公庁のホームページ等より抽出し、最新情報のリンク集として、会員企業にメール配信した。

小学生を対象とした「社会資本体験レポートコンテスト」を、社会資本整備のあり方検討WGと協働で開催し、社会資本及び建設コンサルタントの役割を、広報する機会を創出した。

建設コンサルタンツ協会の会員企業の活動を取り纏めた「熊本地震災害レポート」を、協会九州支部ならびに協会本部との協働により作成し、関係諸機関に配布した。

- (2) 望ましい建設生産システムのあり方についての検討

契約のあり方専門委員会の事務局として、建設コンサルタント業務における契約の重要性について理解を深めることを目的に、大森弁護士を講師として「契約のあり方講習会」を協会5支部にて開催・運営した。また、協会会員ホームページに大森弁護士の抄録を公開した。

建設コンサルタント業務の発注・契約状況等について整理し、建設コンサルタント業務の望ましい契約方式を研究する対外活動委員会に提供した。

近年需要が増加しているPM/CM業務について、今後の展開方針の整理及び具体的な制度検討を行う監理業務対応検討特別WGを補佐した。

- (3) 建設コンサルタント技術者及び業界の資質の向上

道路橋技術基準に対する疑義を適切に回答し、基準の正しい解釈を協会員に周知徹底することを目的に、平成25年度より国総研・土研と連携

して実施している「道路橋技術相談窓口」の運営を、道路橋技術課題対応WGと連携して行った。

- (4) 社会・経済システムの変革に伴うニュービジネスの開発

(一社) 関東地域づくり協会の助成を受けた「外濠再生に資する調査研究」に係わる住民や行政等との外濠再生懇談会、外濠市民塾を、東京都市大学、法政大学、東京理科大学、中央大学、日本大学、東京大学との連携により開催した。

- (5) 自主研究

各研究員の自主研究として、学識経験者等の指導のもと、「自転車レーンにおける交通事故分析と海外との比較に基づく課題」等の研究を行い、学会発表及びRIIM REPORTとして取りまとめた。

### 2. 次年度の活動について

平成29年度も、インフラストラクチャー研究所のミッション(使命、任務)を継続的に実施し、建設コンサルタント業界等にその成果を広報・啓発していく予定である。

(インフラストラクチャー研究所 佐藤 康晴)